

平成15年度(第20回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容 の分類	問い合わせ先
<p>金山町(山形県金山町)</p> <p>http://www.town.kaneyama.yamagata.jp/</p>	<p>地域の風景や特性を残す取り組みとして昭和38年に「全町美化運動」がスタート。その後、59年に「街並みづくり100年運動」を町の政策課題に位置付け、金山型住宅の普及や、「金山町街並み景観条例」の制定、「全町公園化構想」による水路や既存施設を活用した交流サロンの整備、金山の街並みを案内する「街並み案内人制度」等、景観をうまく活用した総合的な地域づくりを実施。さらに、自然と農村の体験学校「四季の学校・谷口」や都市住民との交流の場である「共生のむら・すぎさわ」、地元の野菜や山菜を加工し販売する「産直グループ夢市」の取り組み等、地域づくり活動の活性化や交流人口の拡大に発展。景観を活用した総合的な地域づくりが行われてきた。金山大橋歩道橋(きごころ橋)竣工や大堰公園の整備など、表彰受賞後も景観をうまく活用した総合的な地域づくりに取り組んでいる。また、金山町産直組合を結成し、「産直ちようほう屋」をオープンする等、地域づくり活動の活性化や交流人口拡大にも発展している。現在も景観を利用した総合的な地域づくりが行われている。</p> 	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>金山町総務課総合政策係 0233-52-2111</p>
<p>名橋「日本橋」保存会(東京都中央区)</p> <p>http://www.nihonbashi-meikyou.jp/</p>	<p>「日本橋」の保存及び環境美化を通じ、関係団体諸官庁と協調して「日本橋」を中心とした地域発展に寄与することを目的に設立。とりわけ「日本橋」上空の首都高速道路の移設に対して、熱心に関係機関に継続的に要望を行っている。</p> <p>また、4月の第1週には美化・保存を周知する「春の名橋「日本橋」まつり」の開催や、7月の最終日曜日に地元町会・会員企業・地元小学校とその父兄、関係機関の協力により「橋洗い」を実施する等、「日本橋」の保存・発展に取り組んでいる。その結果として、「全国子ども橋サミット」の開催、箱根駅伝の日本橋を通るコースへの変更等、地域の活性化に貢献している。平成23年4月に架橋100周年を迎えるにあたり、まちのにぎわいや活性化がさらに大きくなっている。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>中央区区民部商工観光課 03-3546-5328</p>

<p>(財)大鹿歌舞伎保存会(長野県大鹿村)</p>	<p>江戸中期以降、大鹿村内で途切れることなく伝承されてきた国選択無形民俗文化財の大鹿歌舞伎には、今日の商業歌舞伎にはない独特の型や演出方法・外題等が残されている。回り舞台付の歌舞伎舞台は幕末から明治にかけて建築されたものが4棟残り、この舞台を活用した定期公演には多くの観客が詰めかけ盛況となる。</p> <p>後継者育成として昭和50年より、中学校と連携して生徒に歌舞伎の指導を実施し、この中から数名が今日の舞台を支える役者として生長している。昭和59年にオーストリア、平成4年にドイツと国内のみにとどまらず、地芝居をとおした文化交流を国内外にも実践し好評を博している。</p> <p>昭和58年より村内に残る歌舞伎舞台を活用して春秋年2回の定期公演開催と、大鹿中学校歌舞伎班の指導育成を軸に、全国地芝居サミットの開催(平成2年)、地芝居伝習塾開催(平成9年～15年)大鹿歌舞伎教室の開催(平成17年～19年)など地芝居の魅力の普及と保存伝承に多彩な活動を展開している。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>大鹿村教 0265- 育委員会 39-2100</p>
<p>北山村(和歌山県北山村)</p> <p>http://www.vill.kitayama.wakayama.jp</p>	<p>長らく途絶えていた「いかだ流し」を、観光用の「いかだ下り」として復活。約6kmにかけて自然あふれる熊野の溪谷を約70分かけて行われる「いかだ下り」は全国でもここだけであり、年々利用者も増加している。この取り組みは、古来から伝わる「いかだ流し」という伝統の技術が途絶えるのを防いだばかりでなく、その利用者のために、キャンプ場、温泉施設等を備えた「おくとろ公園」や「道の駅おくとろ」の整備を行うなど、筏下りを核に山村の自然と景観を生かした体験観光エリアとして、北山村の産業に大きく貢献。観光客数も年々増加してきた。</p> <p>伝統技術の復活と継承をキーワードにスタートさせた「北山川観光筏くだり」、丸太で組んだ昔ながらの筏下りが体験型観光として脚光を浴び、今では村の風物詩として多くの観光客が訪れる。</p> <p>この取り組みは、古来から伝わる「筏流し」という伝統技術を途絶えることを防いだばかりでなく、その利用者のため、「おくとろ公園キャンプ場」、「おくとろ温泉宿泊施設」、「道の駅おくとろ」など、筏下りを核に山村の自然と景観を生かした体験観光エリアとして北山村の産業に大きく貢献している。</p> <p>近年、伝統文化の継承と地域産業の担い手として、全国からの公募により、筏師後継者育成事業にも取り組んでおり、若者定住の促進、地域経済の発展に大きな成果をもたらしている。</p> 	<p>観光振興</p>	<p>北山村総 0735- 務課 49-2331</p>

<p>あやおり夢を咲かせる女性の会(岩手県遠野市)</p>	<p>農業振興施策に女性の意見を反映させることをねらいに設立。平成10年度、綾織地区に道の駅「遠野・風の丘」のオープンに伴い、伝承料理を中心とした店「夢咲き茶屋」を開店。遠野の味と心を伝え、利用客増大、ひいては遠野市の交流人口拡大に貢献。また、鍋料理を囲んでの交流会「北東北なべなべサミット」等の開催を行う他、生ゴミの堆肥化の取り組み、小学校へ羊毛機織りなどの伝承活動、「夢咲き茶屋」で提供している食材を、若者の農業担い手グループや中学校の学校農園で収穫した食材を使用するなど、地域住民との関わりのあった活動も実践してきた。</p> <p>「大型圃場で農作業をする女性が使用できるトイレを作ってほしい」との要望に端を発し、農村振興や農村の環境づくりに女性も参加しようと平成6年に設立。これまで、日本で初となる「田んぼの中に休憩所付き曲がり屋風公衆トイレ」の設置の実現や、平成10年に道の駅「遠野風の丘」が地域に設置にされたことに伴い、地元多彩な農作物を食材としてふるさとの味を提供する「夢咲き茶屋」を開店し、地域内はもとより県内外の多くの人々に好評を得ている。</p> <p>また、地域の地名である「綾織」の由来である織物を後世に伝えようと下部組織に「夢咲きめん羊の会」を設立、羊を飼育し機織を行っており、この活動は、小中学生の体験学習に取り入れている。平成13年には、北東北3県各地の鍋料理を囲んでの交流会「北東北なべなべサミット」を企画運営し、平成14年以降は、「岩手なべ端会議(岩手なべなべサミット)」として県内各地の鍋料理を囲んでの交流会を継続して開催している。平成19年には、地域の食文化を次世代に残したいと「あやおり食ごよみ」を作成し、地域の公民館において食ごよみを活用した生涯学習講座「快適な田舎暮らし講座」を開催している。会の活動目標である「女性が生き生き輝く、魅力ある農村にする」ため、現在も地域づくりに積極的に参画している。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>遠野市綾織地区センター 0198-62-2838</p>
<p>木の文化塾(茨城県大子町)</p> <p>http://www2.ocn.ne.jp/~myouga/index.html</p>	<p>地元の大工さんや左官屋さんを中心に、地域の文化の継承と発展を目的として、平成7年に設立。当時は会員個人の作業場を借り、地元を中心に木工教室などの活動を行っていた。</p> <p>平成13年には、活動拠点を確保するため、空き家となって雨漏りしている築百年以上の茅葺き民家を借り受け、会員、地元住民の他、公募により集まった「茅刈り応援団」「茅葺き応援団」等の地区外参加者を含む計120名とともに、約半年をかけて茅葺き屋根の全葺き替えを実施(平成14年3月完成)。</p> <p>冥賀という地名から、その場所を「冥賀の里」と命名し、親子木工教室を始め、学校等への出前木工教室、正月飾り教室、味噌づくり体験、餅つき体験、昔話や地域の衣食住を題材にした講演会を開催しているほか、TVやCMのロケ地として活用を図るとともに、地域との交流や様々な地域資源を活用した取り組みを行っている。</p> <p>また、平成20年から旧下野宮保育所を借り受け「の～んびりのさと」と名付けて、ピザづくり、豆腐づくり、小麦づくりや宿泊体験の受入れなどを行っている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>大子町企画観光課 0295-72-1131</p>



<p>島を美しくつくる会(愛知県一色町)</p> <p>http://www.japan-net.ne.jp/~benten/island/utsukushiku.tsukuru/index.html</p>	<p>平成7年度に町が中心となり地域資源や生活文化等の価値の調査を行い「佐久島活性化構想(弁天海港-生活と芸術-)」を策定し、その島民の推進組織として全島民が会員の本会が設立。名物料理や民芸品の開発、黒壁の家並みや雑木林の景観形成のための自生水仙やリパ・綿等の植栽活動、活動の拠点である「弁天サロン」において島の歴史や文化を紹介する島民展の定期開催等、島民一体となった地域づくり活動を進めている。また、13年度からは、定期的に外部のアーティストや学生ボランティアを島に呼び、島に滞在中、島に携わる作品を制作してもらったり、また、作家を自宅に招待するなど交流活動へと発展。その作品を島の各所に展示し島全体を展示場とする「芸術の島」として地域の魅力を高めることになった。</p> <p>「島を美しくつくる会」は、島民の自主的かつ創意あふれる活動を通して、自然、風土、歴史、産業といった佐久島固有の資源を発掘・研磨し、島の活性化(経済的発展、交流人口の増大、定住人口の確保など)を推進することを目的に平成8年に設立された。島に在住する人によって構成され、島外の人々や行政とも協働しながら活動を推進している。当会では、「アートと地域の協働」(アートによる島おこし)をテーマに、「ひと里」「美食」「漁師」「いにしえ」の4つの分科会を核に、主に次のような活動を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 定住対策の推進 (2) 商品開発の推進と企業精神の喚起 (3) 住・観の調和のとれた景観づくり (4) 伝統・歴史の保存を通じた地域文化の復興 (5) アートとの交流の場づくり <p>これらの活動は島民や島外からの参加者の交流の接点となり、楽しみながら島全体を元気にしていく原動力となっている。</p> <p>また、2009年には、朝日新聞社と森林文化協会が「にほんの里100選」を発表(委員長は山田洋次監督)し、佐久島がその一つに選ばれた。黒壁の家並が続く半農半漁の島として、景観や人の営み、豊かな自然などが評価された。黒壁運動や里山づくりの地道な当会の活動が着実に実を結びつつある。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>一色町建 0563- 設経済部 72-9607 産業振興 課佐久島 振興室</p>
---	--	-------------------	--



<p>宮原町(熊本県宮原町)</p> <p>http://www.hikawaovo.u.hinokuni-net.jp</p>	<p>宮原町のまちづくりの拠点として、大正時代の銀行跡の建築物を改修し平成7年度に「まちづくり情報銀行」を開設。住民参加の拠点として、またまちづくりに関する情報の受発信の場として活用。さらに、本町14地区の地域の組織を支店と位置づけ、各地区が行う住民主体の活動に対して補助金を交付するなど、地域づくり活動をサポートしている。この取り組みの結果、案内看板整備、環境美化活動、郷土芸能保存、研修会の開催等、各地区の独自の活動が生まれた他、各地区の活動が合併後の都市内分権や住民自治のモデル事例として注目されている。また、これらの住民主体のまちづくりの集大成として、町民主役のまちづくりの推進等を目的に「宮原町を守り磨き上げるまちづくり条例」を15年1月より施行。住民主導のまちづくりをより積極的に進めてきた。</p> <p>旧宮原町は、平成17年10月1日に旧竜北町と合併し、人口13,000人「氷川町」が誕生した。新町における総合的かつ計画的な行政の運営を図るため、氷川町総合振興計画(基本構想・基本計画・地区別計画)を18年度と19年度の2ヶ年かけて策定を行った。なお、策定手法として、旧宮原町方式を採用し、徹底した住民参画により、行政やコンサルタントが作成したものではなく、住民自ら策定に関わり、そして実現に向かって官民協働で活動が展開できるような計画を策定するため、自治会を延べ200回程廻った。</p> <p>今回の策定の特徴である地区別計画(自治会単位の10年計画)は、職員及び住民の意識改革に苦勞した。行政依存の意識も強く、行政と住民が協働して地域のまちづくりを進めていく必要性を200回余りの会議毎に訴えた。また、計画策定や「住民主役型のまちづくり」の制度を氷川町自治基本条例に定め、全国から多数の視察研修を迎えている。</p> <p>地区づくり制度として、自治会の組織に「地区づくり委員会」の設置、財政支援として650万円の「住民主役のまちづくり補助金」を準備し、地区別計画実現のための取り組みとして39地区全地区から計画書、申請書が提出された。事業は多岐にわたり、道路沿いや水路の景観整備・花いっぱい運動、世代間交流事業として文化祭・納涼祭等の実施、文化財やマナー向上のための啓発看板の設置、農産物直販所開店、憩いの場や道路の整備等に取り組んでいる。「自分たちの地区は自分たちで創っていくもの」として住民主体の地区まちづくり事業が推進されている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>氷川町総務振興課・まちづくり推進室</p> <p>0965-62-1600</p>
---	---	-----------------------	--



平成14年度(第19回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>北海道北オホーツクの大自然で学ぶ会(北海道浜頓別町)</p> <p>解散</p>	<p>離農で過疎化が急激に進んだ豊寒別地区において、住民コミュニティーの場としての小学校の維持発展のため、宅地200坪を無償提供する定住留学を柱に、里親留学、親子留学といった山村留学を実施。全国各地から留学があり、留学生は全校児童の9割を占め、地区人口に対する留学家族者数の割合は3割に上る。留学生受入れにより、都市と農村の交流の輪が広がり、新鮮な感覚と新しい価値観が生まれ、地域活性化の新たな原動力になった。</p>	<p>都市・農村交流促進</p>	
<p>社団法人飛騨高山観光協会(岐阜県高山市)</p> <p>http://www.hidatakayama.or.jp/</p>	<p>民間活力をより効果的に引き出し、官民一体となった強力な観光事業の推進のため観光協会が設立された。飛騨高山独特の伝統文化など地域の観光資源を保存・整備するため、地域住民・観光協会・行政が一体となって観光を中心とした地域づくりを実施している。20年以上継続して実施しているイベントをはじめ、年間200に及ぶ様々な誘客イベント、旅行・鉄道・航空会社等と連携した全国キャンペーン、情報発信などの取り組みを行政とともに実施し、国内外から多くの観光客が訪れている。</p> 	<p>観光振興</p>	<p>高山市商工観光部 観光課 0577-32-3333</p>
<p>なら燈花会の会(奈良県奈良市)</p> <p>http://www.toukae.jp/</p>	<p>観光客が減少する真夏の奈良の活性化を目的に、奈良公園内の4つのエリアを約7千本のろうそくを主とした灯りで演出し、幻想的な光の回廊を生み出すイベントを開催。イベントにはボランティアをはじめ多数の参加者があり、地元商店街や自治会でも燈花会開催に併せて自主的に燈火を行うなど、地域に根付いた行事になりつつあり、奈良の新しい夏の風物詩が誕生した。</p> <p>現在、奈良公園内の数箇所の会場で、毎日400人を超えるボランティアの人力によって、毎夜2万個の「ろうそく」を灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた広大な規模の古都奈良の幻想的な風景の中、夏の10日間だけろうそくの灯りを灯す演出を楽しんでもらう祭典となっている。</p> 	<p>観光振興</p>	<p>奈良市観光経済部 観光戦略室 観光交流課 0742-34-5135</p>

<p>恩納村商工会(沖縄県恩納村)</p> <p>http://www.onnaweek.jp/</p>	<p>本土からの修学旅行生や観光客が、恩納村の生活文化や自然環境に触れ、体験することを通して地域住民と交流する「ふれあい体験学習事業」を実施。体験指導のスタッフは、村内の団体や企業など全て村民であり、誘客促進効果・経済波及効果だけでなく、活動を通して地域の連帯感が生まれ、伝統的な文化を紹介していくことで地域文化の振興につながっている。受賞団体である恩納村商工会が平成21年4月にNPO法人特定非営利活動法人ふれあいネットONNAを設立、現在は当法人が事業を継承、活動を継続している。</p>	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>恩納村企画課</p> <p>098-966-1201</p>
<p>フルーツタウン直売施設運営管理組合 愛称「産直あぐり」(山形県榊引町)</p> <p>http://www.santvokugri.jp/</p>	<p>鶴岡市榊引地域の特色を活かしたフルーツタウンづくり構想を掲げ、その拠点として旧榊引町が直売施設を整備し、(株)産直あぐりが指定管理を行っている。女性の運営参画による産直活動により、地域色の強い農産物の生産や加工品製造活動が活性化している。また、首都圏からの修学旅行農業体験活動への協力や東京都新宿区神楽坂での産直イベント開催等による都市農村交流を図るなど、農業の活性化にとどまらず、交流拠点として地域の活性化に大きく貢献している。</p>	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>鶴岡市榊引庁舎産業課</p> <p>0235-57-2114</p>
<p>蜻蛉(せいらい)の会(愛知県大府市)</p>	<p>すっかり汚れてしまった市内の溜池「新池」を、市民の有志が自分たちの手で浄化しようと、平成4年に会を結成。「できることから始めよう」を合言葉に水質改善のために手作り竹炭の投入や、ホテイアオイの養殖、水質浄化プラントやホテルの宿の設置など様々な取り組みを地元・行政・企業の連携によって実施。市内のため池「新池」を市民有志が自分たちの手で浄化しようと平成4年に会を結成。「クリーン・アップ・ザ・ワールド・イン大府」への参加や河川の清掃美化活動を通じて、地域課題の克服とともに地域住民の環境保全意識の向上を図っている。</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>大府市市民協働部協働促進課</p> <p>0562-47-2111</p>



<p>特定非営利活動法人 あわじ緑花協会(兵庫県南あわじ市)</p>	<p>淡路島の主要道路沿線の花壇整備や、全島の美化運動を展開するため協会を設立。全島的な緑花の中心団体として花づくりに関する交流会、講習会、各種イベント、花壇の維持管理や、島民の4割が参加する全島一斉清掃等、花を通じた人づくりや地域づくりを行っている。これらの活動を通して、地域住民の中に「花と緑の島」という意識が着実に浸透しつつあり、住民の自主的な地域づくり活動が生まれてきた。</p> <p>現在、ふれあい花壇の整備、保育所や小学校での出前園芸教室の実施、老人会や婦人会等を対象とした寄せ植え講習の開催、淡路島女子駅伝競走大会沿道におけるコスモス播種など淡路島の緑花運動の推進について、永年にわたって活動を継続。</p>	<p>環境資源 の保全・ 活用</p>	<p>兵庫県企 画県民部 政策室地 域担当課</p> <p>078-341- 7711</p>
<p>隠岐FM PAOPAO (島根県西郷町)</p> <p>活動休止</p>	<p>隠岐島7町村の連携により隠岐・絵の島花の島振興協議会を発足し、ソフト事業としてFM局を開局。高校生や社会人など、島民約50人からなるボランティアで地域情報満載のオリジナル番組を放送した。地域の魅力を発信するだけでなく、番組制作に関わる若者の人材育成の場にもなっており、スタッフが地域づくりの中心メンバーへと成長するなど、隠岐の地域づくり活動や若者文化に大きな影響を与えた。</p>	<p>地域連 携・地域 おこし</p>	<p>隠岐の島 町企画財 政課企画 調整係</p> <p>08512-2- 8566</p>



平成13年度(第18回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容 の分類	問い合わせ先
<p>トロッコ王国美深の会 (北海道美深町)</p> <p>http://torokko.co.uk/</p>	<p>美幸線廃止後、廃線約5kmの軌道を復旧し、JRの軌道自動自転車の払い下げを受け、トロッコ王国を開国。軌道や鉄橋の保線、トロッコ列車の保守点検、運行管理は全て会員の手による。全国各地から観光客が訪れ、特産品等のPRほか、他の観光施設等の相乗効果が生まれるとともに、マスコミを通じて町のイメージアップが図られ、地域振興の起爆剤となった。この活動が認められ、受賞を受けたところであるが、平成16年3月にNPO法人として認証を受け、現在も継続運営されている。</p> 	<p>観光振興</p>	<p>美深町産 01656-2- 業施設課 1617 商工観光 建築グ ループ</p>
<p>吉野山灯り実行委員会 (奈良県吉野町)</p> <p>活動停止</p>	<p>吉野の地場産業の素材である杉・桧・和紙を活用した山灯り作品の制作・展示をとおして、木材や和紙がもっている温もりや風合いなどの良さが再認識され、吉野材の需要の拡大や、新商品の開発を目指した「山灯り事業」は、事業をはじめて10年が立った2008年に当初の目標を達成したため、一時終了することとなった。</p> <p>吉野中学校の生徒たちが作品を制作するJr. 山灯りについては、次代の吉野を担っていく若者世代が吉野の産業について学ぶとともに、吉野の木材・産品への愛着や、地域・産業に対する誇りを醸成する良い機会となるため今後も継続して行っている。</p> <p>また、これまで上市の古い町並を活かした山灯りコンテスト展を行ってきたが、山灯りの材料の和紙や割箸の生産が盛んな国栖地区での新しい山灯り事業の展開を現在検討しており、この国栖地区での山灯り事業の実施により、紙漉き、箸作りだけでなく、木工やガラス工芸などさまざまな工房がある国栖地区をものづくりの里として強く町内外の人たちに印象付けるとともに、地域の魅力の増大につなげている。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>吉野町企 0746-32- 画政策課 3081</p>

<p>サウンドファイブ夢の音会(鳥根県金城町)</p> <p>http://www.yumenone-mura.com/</p>	<p>音楽を通じて地域内外の交流を行い、地域づくりを行っている。会自らのコンサート活動やビニールハウスコンサートなどのイベント開催や、プロのアーティストを招いたイベントを開催し、地域の音楽文化の振興活動を積極的に行っている。また、自らの活動拠点でもある宿泊研修施設「森の公民館」の管理運営も行っており、近県からの各種団体や県内外の研修、視察などを受け入れている。</p> <p>さらに、各方面で活躍する著名人を館長に迎えており、この度、第5代館長には、直木賞作家、芹原すなお氏を館長に迎えた。</p> <p>平成21年には、活動40周年を迎え、様々な記念イベントを開催し、より一層精力的な活動を行っている。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>浜田市金城支所自治振興課 0855-42-1230</p>
<p>向島博覧会実行委員会(東京都墨田区)</p> <p>解散</p>	<p>少子高齢化や地域産業の衰退に伴い増加している空地・空家を活用したコミュニティガーデン・SOHO・アートギャラリー、情報ネットワークづくり等の各種社会実験を行うとともに、国内外のNPOの協力を得て、高齢社会における町会活動や子育て支援、グループハウス等に係る公開討論会、海外都市との交流イベント等を開催した。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>ひさかた風土舎(長野県飯田市)</p>	<p>自治会の地域づくり構想を具体化する支援団体として発足し、「農」を基本に「土を耕す、地域を耕す、心を耕す」ことをねらいに活動している。特産品(ひさかたワインなど)の開発・販売の他に、各地の村起こしの支援活動や子供たちに地域の文化を教える寺子屋活動(スポーツ、読書、自然観察等)、風土舎通信の発行、交流活動の促進(「風と土のフォーラム」開催等)を実施している。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>飯田市企画部企画課 0265-22-4511</p>



<p>安心院町グリーンツーリズム研究会(大分県安心院町)</p> <p>http://www3.coara.or.jp/~ajimu/</p>	<p>農業・農村・田舎だからできることに取り組むよう意識改革を行い、「緑豊かな農村地域において、その自然・文化・人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動」であるグリーンツーリズムを推進。産業のみならず、福祉・文化・教育・景観までを一体的に取り組む、老若男女や職業を越えた連携により地域活性化に深く貢献している。</p> 	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>宇佐市安心院支所 産業建設課グリーンツーリズム推進係</p> <p>0978-44-1111</p>
---	---	------------------	---

平成12年度(第17回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>展勝地がいあ市「バザール街道107」実行委員会(岩手県北上市)</p> <p>活動休止</p>	<p>北上市が古今を通じた交通・運輸の要衝であることに着目し、桜の名勝「展勝地」へのレストハウス建設を機に、日本海と太平洋を結び、人と文化が交流する「市」を開催しようと市民有志の参加を得て結成。隣県を含めた多軸型連携に発展しており、地域の一体感の醸成に努めた。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>北上市企画部地域づくり課 0197-64-2111</p>
<p>長井市レインボープラン推進協議会(山形県長井市)</p> <p>http://samidare.jp/rainbow/</p>	<p>「台所と農業をつなぐながい計画(レインボープラン)」を推進。生産者と消費者が協力し、生ゴミの分別とたい肥の生産、土壌の活性化、安全な農産物の供給という地域循環システムを確立。市民と行政が対等な関係で創造を行うパートナーシップ型のまちづくりの先駆けとなった。</p> <p>生産者と消費者である市民が協力し、生ごみの分別と堆肥の生産・使用を通じ、土壌の活性化、安全で美味しい農産物の供給という地域循環システムである「レインボープラン」を運営。多くの事業視察者への説明にあたる市民ガイド事業、環境学習・食育を推進するためのレインボー野菜・米を使った学校給食、安全安心の提供や農産物のブランド化・高付加価値型農業を視野に入れたレインボープラン農産物認証制度等を実施しながら、市民と行政との協働により、様々な分野での波及効果も狙いながら循環を基調とした地域づくりに取り組んでいる。</p> <div data-bbox="544 808 948 1088" data-label="Image"> </div>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>長井市企画調整課 0238-84-2111</p>

<p>藻塩の会(広島県蒲刈町)</p> <p>http://www.moshionokai.jp/</p>	<p>「県民の浜」整備事業の造成工事中に、古代の製塩所で古墳時代の製塩土器が数々発掘されたのをきっかけに、古代の塩づくりについて研究しようと設立。12年間余りの試行錯誤の末、再現。民間商事会社による藻塩の商品化や来町者への塩づくり体験指導等により、町を広くPRしてきた。</p> <p>「藻塩の会」は、1983年、広島県安芸郡蒲刈町(現・広島県呉市)の南端にある沖浦海岸(現在の「県民の浜」)の造成工事中に、古代の製塩所で古墳時代の製塩土器が発掘されたことをきっかけに、古代の塩づくりについて松浦宣秀氏が研究を始め、実験作業をサポートするために有志によって設立された。</p> <p>万葉集の「…朝風に玉藻かかりつ 夕なぎに 藻塩焼きつつ…」をヒントに、海藻(ホンダワラ)を利用した古代の塩づくりに取り組み、12年間あまり、試行錯誤した結果、古代の塩「藻塩」を再現することに成功した。</p> <p>「藻塩」は、海水と海藻のうま味が凝縮した、尖りのない、まろやかな口あたりが特徴で、現在では民間会社によって商品化された。</p> <p>また、サポートで得た塩づくりの方法を活かした「かまがり古代土器製塩体験施設」での塩づくり体験指導やPR活動を行っており、年間約7,000人が古代の塩づくりを体験している。</p> <p>また、2003年にオープンした「古代製塩遺跡復元展示館」には、年間10,000人以上の来館者があり、館内で遺跡の説明や古代の塩づくりに関するご案内をしている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>呉市総務企画部企画情報課</p> <p>0823-25-3273</p>
<p>青梅宿アートフェスティバル実行委員会(東京都青梅市)</p>	<p>町の商店街組合が取り組んだ都のモデル事業完成イベントを機に「青梅宿アートフェスティバル」を開催。駅周辺の商店街が地元の高校、国際交流団体と共に、昔の映画看板の掲示等、レトロな雰囲気漂うイベントを実施。空き店舗対策事業として、「昭和レトロ商品博物館」も開館した。</p> <p>現在、青梅宿アートフェスティバルを実施していた実行委員会は、現在は無く、6個の商店街が実施母体となり、合同で実施している。</p>	<p>商店街の活性化</p>	<p>青梅市環境経済部 商工観光課 商工係</p> <p>0428-24-2480</p>



<p>城端水車の会(富山県城端町)</p>	<p>昔懐かしい風景と自然の力を利用した遊びを提供しようと、地区の有志がからくり水車を制作したのがきっかけ。その後、参加メンバー、水車も増え、「水車音頭」の作詞・作曲等の活動も行われるようになり、住民の連帯意識が深まった。平成6年度には行政も参画し、「水車公園」が建設された。</p> <p>城端水車の会は南砺市理休地区の住民が中心となって組織する団体であり、平成5年ごろから、主にかからくり水車の製作、及び設置を行っている。理休地区は緩やかな傾斜のある農村地域であり、昭和初期までは数多くの水車が回っていた地区である。その水車を復活させることで、昔懐かしい風景を再現し、地域を盛り上げることを目的としている。</p> <p>当初、4人の仲間から始まったが、次々と協力者が増え、それに伴い水車も平成11年には40基以上が点在するなど、住民の心をつなぐ地域のシンボルとなっている。</p> <p>また、それだけにとどまらず、新たな民謡「城端水車音頭」の制作や、水車を縁とした交流など、活動の幅を広げている。</p> <p>近年は会員の高齢化などで管理が行き届かず壊れる水車が増えていたが、平成21年の夏に、痛んだ水車を修理して集めた「水車ロード」を整備するなど、現在は「水車の里」復活に向け動き出している。</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>南砺市市長政策室 企画情報課 0763-23-2002</p>
<p>信濃木崎夏期大学(長野県大町市)</p> <p>http://www6.ocn.ne.jp/~kitakyo/</p>	<p>学術の地方普及や将来の郷土を担う人材育成を願い、地元教育委員会を中心に、木崎湖畔の信濃講堂を会場として、著名な学者を講師に招くなど、学問的に高度で専門的な講座を実施。</p> <p>平成22年度で93回という歴史と伝統を誇り、地域に根ざした生涯学習の場となっており、地域文化の発信拠点としての役割を担っている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>大町市教育委員会 学校教育課 0261-22-0420</p>



<p>大東国際文化交流協会 (島根県大東町)</p>	<p>早稲田大学への留学生のホームステイを受け、国際交流の必要性と意義を認識させられたのを機に結成。ホームステイ、町民海外研修奨励助成、姉妹都市交流等の事業、また国際的な大蛇演劇の系譜を集大成するなど、住民が郷土を見つめ直し、国際感覚を豊かにする機会を提供してきた。</p> <p>昭和61年から早稲田大学への留学生の1か月間ホームステイを受け入れており、実に25年間にわたり継続している。近年では、地域の縫製工場で働いている中国人研修生との交流会を実施したり、アジアとの交流にも力をいれている。</p>	<p>国際交流</p>	<p>雲南市政 0854-40- 策企画部 1013 地域振興 課</p>
			

平成11年度(第16回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>洞爺村国際彫刻ビエンナーレ実行委員会の企画50人委員会(北海道洞爺村)</p> <p>活動休止</p>	<p>洞爺村の豊かな自然と調和した芸術・文化を育むために2年に1度開かれる洞爺村国際彫刻ビエンナーレにおいて、実施委員会の内部機関として企画立案から運営までボランティアで行い、芸術を通じたまちづくりを行った。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>洞爺湖町教育委員会社会教育課 0142-82-5111</p>
<p>藤沢野焼祭実行委員会(岩手県藤沢町)</p>	<p>交通の便が悪く、これといった観光もなかった町で、野焼きを町を挙げての祭りにしようと、昭和51年に町民の有志で設立。当初、参加人数は300人だったが、現在では保育園児から有名な美術家まで15,000人が参加する日本一の野焼き祭りへと拡大してきた。10年前に国土庁長官賞と地域づくり全国交流会議佐世保大会実行委員会会長賞を受賞した当実行委員会は、その後も継続して活動を展開しており、毎年8月上旬に全国の陶芸愛好家と住民が一緒になり、縄文時代の焼成方法で土器を焼くお祭り「藤沢野焼祭」は、今年の夏に第35回記念大会を迎える。少子化や不況の影響もあって、参加作品が減少しているため、窯の数も受賞時期から2基減の14基で焼成しているが、作品づくりや焼成の技術はかなり上達したと史料される。実行委員会は、藤沢町観光協会をはじめとする町内20の各団体から推薦された委員が総務部、野焼部、会場部、作品審査部、観光物産部、イベント部、縄文食堂部、接待部、救護警備部の9部に分かれ、スタッフ300名の先頭に立って祭りをリードする。会議は5月と7月に事業の内容と予算等の協議を、9月には実施後の反省をする。ほかに各部の部会が随時行われる。藤沢野焼祭を支えるのは、すべて藤沢町民である。それぞれの作品づくりのほか、会場設営、縄文村の運営、作品審査への協力、会場の後片付けなどあらゆる分野に町民が関わっており、単なる人寄せのお祭りではなく、作品や祭りをつくることによって世代間交流や地域づくりに大きく貢献する祭りに発展している。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>一関市役所藤沢支所産業経済課商工観光係 0191-63-2111</p>
<p>美山窯元祭り実行委員会(鹿児島県東市来町)</p>	<p>「薩摩焼」発祥の地として、地区の歴史、文化や陶工の匠の技を広くPRしながら、地域づくりに活かそうと昭和61年から「美山窯元祭り」を開催し、陶器市・体験広場・特産市等を実施。平成10年に「薩摩焼400年祭」、「日韓閣僚懇談会」等、ビックイベントを成功させた。「美山窯元まつり」は、毎年11月初旬に開催され、晩秋の美山は陶芸ファンであふれる。薩摩焼体験広場では、陶工の手ほどきで初心者や子どもでも気軽にろくろ・手ひねり・絵付け体験ができる。窯元当てコンテストや薩摩焼チャリティーオークションなど、盛りだくさんの内容で深まる秋を楽しめる。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>日置市東市来支所地域振興課自治振興係 099-274-2111</p>

<p>壺屋やちむん通り会 (沖縄県那覇市)</p>	<p>20店舗余りの窯元や民芸品店等で発足。伝統工芸の壺屋焼を始め、伝統文化や観光名所を市内外に紹介しつつ、各種の地域活性化事業を実施。特に環境整備事業では、行政や財団の協力で石畳の道づくり、看板づくり、店舗の修景等を行い、先進事例として周辺地域から注目された。</p> <p>やちむんとは、「焼物(やきもの)」で、陶器、陶製品のことである。壺屋地区は、沖縄の陶器の発祥地で、通り沿いには壺屋焼を中心とした窯元、陶芸品店、ギャラリーやカフェなどが軒を連ねている。通り会では、毎年11月に地域の小中学校、市立焼物博物館などと連携し、「壺屋やちむん通り祭り」を開催しており、ロクロ無料体験や、伝統芸能やエイサー、旗頭(はたがしら)などの演舞、パレードで、地域の住民や訪れる観光客を楽しませている。</p> <p>また、壺屋焼の代表的な製品である魔よけのシーサーにちなみ、4月3日を「シーサーの日」としてアピールしようと、新旧陶工のシーサーを博物館ギャラリーを中心に展示し、オープニングイベントや、陶器の割引販売などで、「やちむんのまち 壺屋」を盛り上げ、観光振興にも寄与している。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>那覇市企画財務部 企画調整課 098-862-9937</p>
<p>いなみ国際木彫刻キャンプ実行委員会(富山県井波町)</p> <p>http://camp2007.city.nanto.tovama.jp/</p>	<p>4年ごとに、世界五大陸からの海外作家や国内作家及び地元作家が「木彫りを通して世界をつなぐ」をテーマに、それぞれの民族・伝統・文化を表現する木彫刻作品を公開制作し、制作作品展示会を開催することにより、作家同士はもとより小中学生、市内外の来場者とのコミュニケーションを図り、国際理解と文化交流を深め、国際色豊かな芸術文化のための環境づくりを目的とし、南砺市井波地域が世界に向け、木彫刻文化の情報の発信地となるための契機として期待されている。</p>	<p>国際交流</p>	<p>南砺市井波総合文化センター 0763-82-5885</p>



<p>加美町(兵庫県加美町)</p> <p>http://www.takacho.jp/sugiharagami/</p>	<p>昭和47年にかけてこの地で漉かれていた「杉原紙」を復元し、「和紙のまちづくり」活動を展開している。町内の小学校では、卒業証書自分で漉いたり、市民グループが中心となり、全町的に原料の楮を育てる事業を行うなど、住民と行政が一丸となって地域の伝統保守に取り組んできた。</p> <p>加美町は平成17年11月1日に中町、八千代町と合併して多可町となった。合併した旧町はそれぞれ加美区、中区、八千代区と区名としてその名称を残しており、各区には誇れる3つの発祥があった。中区は酒米の最高峰「山田錦」の発祥の地、八千代区は継承すべき「敬老の日」発祥の地、そして加美区には日本一の手漉き和紙「杉原紙」発祥の地。それらは合併後、多可町が発祥の地となり、その魅力を形づくっている。受賞した「杉原紙を生かしたまちづくり」についても、まちづくりのバックボーンとして、多可町でも引き続き展開している。</p> <p>平成14年から宮中歌会始の用紙として使用されるようになった杉原紙を町の誇りとして感じてもらうよう、杉原紙の卒業証書づくりを、加美区の小学生だけでなく多可町の7つある小学生へ広げた。平成22年春で、第15回を数える杉原紙年賀状全国コンクールは、町内小学生を中心に多数の作品が寄せられている。また、杉原紙の原料コウゾを各家庭で栽培してもらい1戸2株運動も続いており、集落やグループで取り組んでもらっている委託栽培とともに、冬場の収穫を住民にお世話になりながら、町内産原料自給率のアップに貢献している。</p> <p>そして、杉原紙などのことにとどまらず、住民と行政が協働でまちづくりを進める手法は、多可町にあっても、地域資源を生かしながら都市と農村の交流、特産品の開発、文化発信事業など多くのユニークな取り組みとしてみることができる。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>多可町(旧 0795-32-加美町)地 4779 域振興課</p>
<p>とってもゆかいな秋吉台ミーティング(山口県秋芳町)</p>	<p>地元の若手リーダー達を中心に、山焼きに象徴される秋吉台の豊かな自然を利用した地域活性化運動を展開。シンポジウムやワークショップ、ドリーネ耕作再現等に取り組み、住民・環境保護団体・行政が共に秋吉台の環境保全と地域の課題について考える機会を提供している。また、ドリーネ新そば収穫祭などを通して参加者との交流活動を展開している。</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>美祢市総合政策部 0837-52-1112 企画政策課</p>
<p>させば塾(長崎県佐世保市)</p> <p>活動終了</p>	<p>市政90周年の平成4年2月に「市民文化の構築とその担い手となる人材の育成」を目指し、ふるさと創生事業の一環として設立。「星(文学)と海(海洋スポーツ)と詩(音楽)のあるまちづくり」という視点で、市民で構成する運営委員会が「主催事業」、「こだわり塾事業」等、4分野の事業を実施した。</p> <p>当初から、佐世保市の市制90周年記念事業としてスタートとし、平成14年度の市制100周年の年を最終年度として終結した。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>佐世保市企画部文化振興課 0956-24-1111</p>



平成10年度(第15回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>沢田農業協同組合(群馬県中之条町)</p> <p>合併</p>	<p>自然環境と地域性を活かした地域産業振興を進めている。平成8年には薬草農業公園「薬王園」を開園し、地域で生産・加工した薬草等の特産品のPR・販売を行うことで都市住民との交流の促進、地域経済の活性化に大きな効果をもたらした。</p> <p>現在、「沢田農業協同組合」は合併により、平成22年3月に「JAあがつま」となった。それにともない、薬王園は閉園された。</p> <p>農産加工工場においては継続され、地元農家の利益確保に大きな効果をもたらしている。</p> 	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>中之条町 0279-75- 行革推進 8802 課</p>
<p>野沢温泉村(長野県野沢温泉村)</p> <p>http://www.vill.nozawaonsen.nagano.jp/</p>	<p>古くからスキーと温泉を中心としたまちづくりに取り組んでいる。オリンピックを始め、多くの国際大会を開催することで、住民に自信・誇り・夢を抱かせると共に、世界へ向けての情報発信と交流を行っている。また、社会基盤・観光施設を整備し、観光の通年化を目指してきた。</p> <p>現在、観光立村として、地域の街並みや歴史、美しい自然環境など、恵まれた地域資源を活かした観光振興施策を推進している。</p> <p>特に、「いで湯の郷」の魅力を最大限に引き出すため、村内共同浴場を中心とした温泉街の街並み景観整備に重点的に取り組むこととしており、昨年「まちづくり計画推進委員会」を設置し、住民と一体となって「まちづくり計画」の策定を進めている。</p> <p>今後、住民自身が景観まちづくりの主役となり、地域の個性ある景観に愛着と誇りを持ちながら、これを守り育て次代に継承して行くため、まちづくり計画に基づき各種施策を展開していく。</p> 	<p>観光振興</p>	<p>野沢温泉 0269-85- 村総務課 3111</p>

<p>厳原港まつり「対馬ア リラン祭」振興会（長崎 県厳原町）</p>	<p>地理条件から朝鮮半島との交流に関わる歴史と文化が蓄積しており、その交易により繁栄した史実を伝える「対馬のアリラン祭り」を企画運営している。祭りには韓国からの観光客も多く、国際的なイベントとなってきた。 対馬最大の夏祭り（8月第1土・日開催）で、昭和39年から「厳原港まつり」として開催。昭和63年よりサブタイトルに「対馬アリラン祭」を追加。江戸時代に修好や将軍の要職祝賀などの目的で行われていた朝鮮通信使行列を約500人規模で再現している。舟グロー大会、演芸の夕べ、花火大会なども開催される。</p> 	<p>国際交流</p>	<p>対馬市観 光物産推 進本部 0920-53- 6111</p>
<p>北海道漁協婦人部連 絡協議会（北海道札幌 市）</p>	<p>昭和33年に全道の漁村婦人部で組織され「海をキレイにする運動」を行っている。水系を通じて海・森・川の環境を一对として捉え、昭和63年から「100年かけて100年前の自然の浜を」を合言葉に「お魚殖やす植樹運動」を実施してきた。 JF北海道女性連（当時：北海道漁協女性部連絡協議会）は、昭和63年から「100年かけて100年前の自然の浜を」をキャッチフレーズに、全道各地で植樹運動を展開している。 道内のほとんどの漁協女性部が植樹活動に取り組み、平成21年までに約87万本の苗木を植樹。全国的にも高い評価を受けている。全道各地に広がったこの植樹運動は、今や地域の人々や子供たちも参加しての大きな活動へと発展している。さらに農業関係者や消費団体とも連携・協働し「安心で安全な食の環境」を守る取り組みへと、その輪を大きく広げている。 （JF北海道女性連が植樹活動に取り組んでいるのは、自分たちの生活の基盤である豊かな海を、子供たちの代まで守り育てていきたいとの思いや、自然の大きな循環の中で海と森は繋がっており、海を守るためには、森を育てる必要があるとの思いからである。）</p> 	<p>環境資源 の保全・ 活用</p>	<p>札幌市市 長政策室 政策企画 部企画課 011-211- 2192</p>
<p>アジア国際音楽祭inし らたか実行委員会（山 形県白鷹町） 解散</p>	<p>「アジアの若者はどんな音楽を聴いているのか」が音楽祭開催の始まり。実行委員会には高校生・主婦・青年会の外、町内在住の外国人もボランティアとして参加している。町民の努力により出演料タダでアジアのミュージシャンが参加し、音楽祭を契機に音楽以外の交流も深めた。</p>	<p>国際交流</p>	

<p>浮野の里・葦の会(埼玉県加須市)</p>	<p>武蔵国(むさしのくに)の昔ながらの田園風景を残す場所で、「メダカ」(絶滅危惧Ⅱ類)やトウダイクサ科の「ノウルシ」(絶滅危惧Ⅱ類)群落など、貴重な生物が生息する自然環境とともに、江戸時代の新田開発の名残をとどめる田堀やクヌギ並木、屋敷林、茅葺屋根等の生活資材に利用したヨシ原(ちりじ野)等の農村文化の歴史的資源が点在し美しい景観を形成している。</p> <p>この美しい景観を保全するため地域の有志により結成された住民活動組織「浮野の里・葦の会」(うきやのさと・あしのかい)は、浮野の里のクヌギ並木や農道等の除草清掃、木々の植栽作業、希少植物の保護を行うとともに、自ら育てた花菖蒲園の観賞や当時の田舟を復元し田堀を遊覧する地域活性化イベント「浮野の里・あやめ祭り」(6月中旬)を開催するなど、景観の保全と地域の活性化のため積極的な活動を行っている。</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>加須市環境政策課 0480-62-1111 (231)</p>
<p>ボランティアグループあかつき会(高知県南国市)</p>	<p>劇団活動による福祉施設訪問・在宅介護支援等を行う福祉ボランティアとして発足。地域において在住外国人が増加していることに着目し、住民との交流活動にも取り組んでいる。福祉活動を国際交流に取り入れ、留学生・身体障害者・地域住民の広範囲な交流活動を行ってきた。</p> <p>現在、本会は、県内の留学生や在住外国人による異文化理解講座や料理交流会を開催したり、まほろば祭り(南国市)の留学生のブースにおいて各国の料理を紹介・販売するなど、地域住民との国際交流推進に大きな役割を果たしている。</p> <p>また、平成14年には、本会のリードにより市内で国際交流を続ける有志とともに南国市国際交流協会を結成し、留学生や在住外国人への日本語指導や自転車・冷蔵庫など日用品の無料貸出を行っている。最近では、留学を終え、帰国した留学生と南国市とのネットワークづくりも計画中である。</p>	<p>国際交流</p>	<p>南国市企画課企画調整係 088-880-6553</p>



<p>財団法人学びやの里 (熊本県小国町)</p> <p>http://manabivanosato.or.jp/</p>	<p>郷土が生んだ北里柴三郎博士の提唱した「学習と交流」を理念に平成8年に設立された。研修宿泊施設「木魂館」と食と健康の交流館「北里バラ」を拠点に、地域振興の及びそれに伴う交流や食・文化事業を通じ、町の地域づくりの核として活動を行っており、全国の地域づくり関係者の集まる所としてネットワークを広げている。他県に先駆け始めたツーリズム大学は13期目を迎えている。</p> 	<p>地域連 携・地域 おこし</p>	<p>小国町総 0967-46- 務課 2111</p>
--	--	-----------------------------	----------------------------------

平成9年度(第14回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>株式会社香島津(石川県七尾市)</p> <p>http://www.shokusai.co.jp</p>	<p>七尾マリンシティ構想を背景として建設された「七尾フィッシャーマンズワーフ能登食祭市場」の運営を行っており、雇用の場の創出と定住促進、周辺地域経済の振興、地場産業の育成、観光客の集客に大きく寄与してきた。</p> <p>平成14年に隣接地に市民のいこいの場として「七尾マリンパーク」が完成し、より充実した施設になったことにより、平成19年4月に国土交通省北陸地方整備局より「みなどオアシス」の認定を受け、平成21年3月に国土交通省道路局より「道の駅」の認定を受ける。</p> <p>七尾市、七尾商工会議所及び地元商店街と連携を密にし、能登、七尾の情報発信の一大拠点としての役割を担っている。</p> 	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>七尾市企画経営部 0767-53-8633 市民男女協働課 地域づくり協働推進室</p>
<p>財団法人丹波の森協会(兵庫県丹波地区)</p> <p>http://www.tanba-mori.or.jp/</p>	<p>地域全体を森と位置づけ、森を基軸とした幅広い事業を実施している。「丹波の森大学」を通じた人材育成、ウイーンの森との住民交流・音楽交流、森づくりの活動拠点「丹波の森公苑」の管理運営等で田園文化都市の形成を目指す住民活動を支援してきた。</p> <p>現在、丹波地域全体を丹波の森と位置づけ、市民主体の丹波の森づくり(地域づくり)を推進し、支援するため、リーダー育成や調査研究・啓発、ウイーンの森との交流事業等に取り組むとともに、丹波地域における地域づくりの指針である「丹波の森構想」の推進拠点としての「県立丹波の森公苑」「県立丹波年輪の里」の指定管理や、「兵庫県立ささやまの森公園」の管理運営により、参画と協働による丹波の森づくりの推進を図っている。</p> <p>主な事業としては、自然環境の保全及び緑化の推進として「地域づくりアドバイザー支援事業」「丹波の森環境学習推進事業」、自然とのふれあい事業として「国際交流事業」「たんば田舎暮らし支援事業」、地域文化の創造及び育成として「丹波の森大学」「むかしばなしの編纂事業」「芸術文化の振興支援」、丹波の森づくり調査及び普及啓発事業として「丹波の森研究所の充実・強化」「情報誌の発行」等を行っている。</p> 	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>丹波市企画部企画課 0795-82-1001</p>

<p>双海町(愛媛県双海町)</p> <p>http://www.city.ivo.lg.jp/</p>	<p>日本一海に近い下灘駅のプラットフォームを利用し、夕日をバックにした「夕焼けプラットフォームコンサート」等イベントを住民の企画運営で開催。県内外からの参加者もあり「夕日の美しい町」のイメージ定着につながっている。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>伊予市総務部まちづくり創造課</p> <p>089-982-1111</p>
<p>日本海オロロンライントライアスロン国際大会実行委員会(北海道留萌管内)</p> <p>解散</p>	<p>留萌管内9市町村を一本化したイベントが必要との声が始まり、自然に恵まれたオロロンラインを背景に管内を縦断する「日本最長」のコース設定(6~8年度は交通事情により距離短縮)で実施された。現在、本大会は、第20回大会(平成18年8月開催)までの参加者は述べ7,100人(申込み9,300人超)となり、北海道最北で開催される国内最長レースとして有名となり、大会期間中の地域住民によるボランティア参加は述べ3,000人を上回った。日本海オロロンライントライアスロン国際大会実行委員会は、平成19年3月30日に解散した。</p>	<p>観光振興</p>	
<p>三川トピア創造委員会(山形県三川町)</p> <p>解散</p>	<p>青年層の意見やアイデアを町政に反映させ、行政の枠にとられないまちづくりを目指して発足。委員は、20代から40代の男女31名で、三川トピア構想の提言、全国方言大会の開催、方言ビデオ辞典の制作等の活動を行っており、町の個性づくり、町のPR、地域文化の掘り起こしにつながっている。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>高崎映画祭事務局(群馬県高崎市)</p> <p>http://www.wind.ne.jp/tff/</p>	<p>映画好きの有志が集まり、市民ボランティアにより活動している。邦画・洋画ベストセレクションをはじめ、年によってテーマを設けた特集上映や若手監督作品の上映を行っている。また、2004年には映画祭を母体として「NPO法人たかさきコミュニティシネマ」を発足し、県内初のミニシアター「シネマテークたかさき」を設立、運営。互いに連携をとりながら地域の上映活動を行っている。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>高崎市市長公室文化課</p> <p>027-321-1203</p>
<p>アフリカ教育基金の会(福岡県北九州市)</p> <p>解散</p>	<p>市内の商店主、医師、教師等がボランティアで集まり、設立。アフリカ地域の発展途上国で、学校・病院の建設・運営、職業訓練による人材育成等、地域ニーズに則した活動を展開している。国内においてもボランティア育成のための研修会、一般市民を対象としたシンポジウム等の開催で、国際協力活動の普及・国際理解の促進に貢献した。</p>	<p>国際交流</p>	

<p>花堂むらおこしグループ(宮崎県高原町)</p>	<p>子供からお年寄りまで、地域ぐるみで清潔で美しい生活環境づくりを目指す清掃活動、生き甲斐と安らぎを求める老人クラブ活動等に取り組んでいるほか、「むらおこしセンター」を拠点に地場産品を活かした特産品づくりを行ってきた。</p> <p>現在、花堂むらおこしグループは、高齢化等に伴い発展的解散を図り、現在団体としての存在はない。しかしながら、本町においては農業基盤の確立ということで、平成16年5月27日に高原町営農センターが設立された。このことを受けて平成17年5月21日、花堂地区民が「集落の農地は集落で守ろう」を合い言葉として、農業機械の共同利用などを推進し、安定した農業経営を目指す目的で花堂区集落営農組合が設立された。</p> <p>この花堂区集落営農組合の組合員有志とJAの共同出資により、農事組合法人「はなどう」が設立され、「更なる農作物の生産性の向上を確立し、さらに販売拡大を図る上において地区内に農産物販売の拠点施設が必要である。」という考えに至り、農産直売所「社の穂倉」の建設を行った。このような農事組合法人「はなどう」の出資者として、当時の花堂むらおこしグループのメンバーが参画し、味噌加工等の技術供与や農産直売所の管理運営等に携わっている。</p> <p>建設に当たっては、組合員全員が何らかの形で関わることとした上で、木材の提供や周辺整備等の奉仕作業を行うなど「手作り」により進められた。</p> <p>平成21年7月5日にオープン以来、地産の麦を加工した味噌、冷凍うどん、パン、菓子類などの商品開発を民間業者とタイアップし、「この販売所でしか買えないもの」を組合員の創意工夫による生産・販売を展開している。</p> <p>また、販売所に隣接する竹林に遊歩道を接し、「くつろぎ」と「癒し」の空間を整備。平成24年度からは築190年の古民家を改装し「民泊」を行う計画であり、地元はもとより都市消費者との交流拠点の確立を目指して展開している。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>高原町農政畜産課 0984-42-2111 営農推進係</p>
----------------------------	--	-------------------	--



平成8年度(第13回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容 の分類	問い合わせ先
<p>協同組合会津復古会 (福島県会津若松市)</p> <p>http://www.aizu.com/ org/aizu/</p>	<p>大型店の進出に対抗して昔ながらの店構えを活かし、訪れた人々の心に訴えるまちづくりを目指す。また、一店一品運動で新たな地場産品を開発する等、新しい商業分化のあり方を求める会津ルネサンスを目指してきた。</p> <p>現在、會津復古会は酒、漆器、菓子、料理、織物、桐箆笥、民芸細工など、会津の長い歴史と文化を守る伝統産業の名門、老舗の協同組合である。</p> <p>昔ながらの店構えを活かし、「ならぬことはなりませぬ」「土魂商才」「真善美」の商人哲学をひたすら追及実践し、古き良きものを残して後世に伝えながら、訪れた人々の心に訴えるまちづくりを目指している。</p> 	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>会津若松市企画政策部地域振興課 0242-39-1202</p>
<p>栃木「蔵の街」音楽祭 実行委員会(栃木県栃木市)</p> <p>http://www.cc9.ne.jp/~ tmf1989/</p>	<p>450棟の蔵を活かしたまちづくりを行政が推進しており、そのソフト事業としてチェンバロを用いた音楽祭の開催となった。地域住民を委員とする実行委員が先駆的事业を自ら考え、主体的に行動することから、文化的まちづくりのインパクトとなってきた。</p> <p>現在、オリジナル器を使用した音楽祭を開催、音楽に親しむ風土の醸成を目指し現在21回まで開催している。現在2010年10月に第22回目の音楽祭を開催する。市民と行政が一体となって運営し、協働の街づくりを実現している。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>栃木市教育委員会文化課学芸推進担当 0282-21-2427</p>

<p>山北幸と下村婦人会 (熊本県湯前町)</p>	<p>自分達の生活向上のための40年以上にわたる継続的な婦人会活動を通して、子供達のために「仲良し文庫」を作るなど、母性が感じられる数々の活動を展開してきた。 現在、下村婦人会は、昭和25年以来、現在も「加工場は家庭の台所の延長である」を基本理念に「たったひとりの漬物でも愛情を込めて」の思いを込めて精力的に活動している。健康にこだわり、添加物、保存料を使用せず、時間と手間をかけ、我が子を育てるように愛情を込めて漬物など20種類以上の商品を作られ湯前町の農産物の地産地消や町おこしに大きく貢献されている。そんな中、平成21年度には、「市房漬」が本場の本物の認定を受けるなど、下村婦人会の思想の根底にある女性の知恵とアイデアで「ものづくり」にしっかりと取り組んでいる。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>湯前町総務課 0966-43-4111</p>
<p>「ツール・ド・おきなわ」実行委員会(沖縄県名護市) http://www.tour-de-okinawa.jp</p>	<p>沖縄国体で培ったノウハウを生かし、「やんばる(北部地域)はひとつ」を合言葉に自転車ロードレースを展開している。日本国内だけでなく、国際的な大会として認知を得られる程になった。 現在、北部地域12市町村がひとつになり、財団法人JKA、日本自転車競技連盟、日本サイクリング協会、沖縄県、内閣府、経済産業省、文部科学省、国土交通省、協賛各社、地元各種団体のご支援の下に、「熱帯の花となれ、風となれ」をキャッチフーズに開催された「ツール・ド・おきなわ」は、去年で第21回大会となっている。 大会では、国際レースをはじめ、市民レース及びサイクリング部門、児童生徒の一輪車大会などが行われた。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>名護市企画総務部 098-053-1212 企画財政課</p>

<p>源氏物語アカデミー委員会(福井県武生市)</p> <p>http://www.genji-ac.jp/index.html</p>	<p>紫式部ゆかりのまちとして式部の遺徳を偲ぶ学術的なイベントであり、毎年「薫」、「彩」などユニークな切り口でイベントを企画してきた。現在、千年の時を超えてなお汲めども尽きぬ魅力と光彩を放つ源氏物語、その作者である紫式部について、紫式部が生涯でたった一度都を離れて一年余の若き日を過ごした越前市において、観る・聴く・味わうをコンセプトに、斯界の権威による魅力あふれる講演や講義だけでなく実際に体験・見学を通して得られる感動を市民と全国の人が共有できる場(フィールド)を提供し、絶えず本物志向で展開すべく「源氏物語アカデミー」を開催している。平成22年度は第23回「源氏物語と雪」をテーマに開催する。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>越前市教育委員会 事務局文化課</p> <p>0778-22-7459</p>
<p>白川郷荻町集落の自然環境を守る会(岐阜県白川村)</p> <p>http://www.shirakawa-go.com/~ogimachi/</p>	<p>世界的な遺産であり、日本の原風景ともいえる合掌家屋を「売らない」「貸さない」「こわさない」を三原則に地域住民が一体となって保存運動を展開してきた。現在、本会は、世界文化遺産に登録された荻町集落の保護を目的として、以下の活動を積極的に進めている。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>白川村教育委員会</p> <p>05769-6-1311</p>
<p>三隅町(島根県三隅町)</p> <p>活動休止</p>	<p>町とブータン王国が和紙を通じた交流(手漉き技術・原料)を実施。国際協力を通じて、町民が改めて町の伝統産業を知り、町に愛着を持ち、誇りに思うことへと繋がった。現在、市(町)としてブータン王国への和紙技術者派遣受入等の交流はしていないが、石州半紙技術者会や石州和紙協同組合により和紙を通じた交流は続けられている。</p>	<p>国際交流</p>	<p>浜田市(旧三隅町)企画財政部 地域政策課</p> <p>0855-22-2612</p>

<p>佐賀バルーンフェスタ 組織委員会(佐賀県佐賀市)</p> <p>http://www.sibf.jp/</p>	<p>地域住民の協力により、機数110数機、選手1,000名、観客80万人の大規模なイベントとして、世界的に権威のある熱気球国際大会の一つとして数えられるようになった。</p> <p>現在、多くのボランティアや地元の自治体、企業と一体となり、また地域住民の理解と協力を得ながら競技運営を行っている。毎年世界各国から100機以上の気球が集まり、観客動員も80万人を超える、アジア最大の熱気球国際大会となっている。また、市民にとってもかかすことのできないひとつの文化、誇るべきものとして定着してきている。</p> <div data-bbox="552 405 946 680" data-label="Image"> </div>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>佐賀市経済部観光振興課 0952-40-7111</p>
--	--	-------------------	---------------------------------

平成7年度(第12回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容 の分類	問い合わせ先
<p>昭和新山国際雪フェスティバル実行委員会 (北海道壮瞥町)</p> <p>http://www.yukigassen.jp/index2.html</p>	<p>「スポーツ雪合戦」を考案し、経済活動が停滞する厳冬期を活性化している。平成元年第1回の国際雪合戦を開催以来、第7回大会では予選540チーム、本選188チーム、外国人7カ国40人が参加し、宿泊施設をはじめ、雪球製造機の独自開発等により地域経済にも好影響を与えてきた。</p> <p>現在、平成元年に70チームの出場により第1回大会が開催され、本年第22回昭和新山国際雪合戦大会では152チームが出場して行われた。</p> <p>国境を越えたボーダレス・スポーツとして歴史を刻みつつある「YUKIGASSEN」。フィンランドでは欧州選手権が行なわれるほど、その競技人口は世界へと広がりを見せている。</p> 	<p>国際交流</p>	<p>壮瞥町経済環境課 0142-66-4200 商工観光室</p>
<p>わらび座(秋田県田沢湖町)</p> <p>http://www.warabi.org</p>	<p>日本の民謡・民族芸能をベースに舞台活動を行い、わらび劇場、民族研究所、温泉施設等を整備する一方、都会の中高生が農業を体験する「グリーンツーリズムわらび座修学旅行」を実施し、都市と農村の交流の輪を拡大してきた。</p> <p>現在、郷土芸能や民謡の宝庫と称される秋田県仙北市に本拠を置き、東北はもとより全国各地の芸能をベースにしたミュージカルや多彩なジャンルの舞台作品を創り、7つの公演チームが年間1,200回の全国公演を展開している。文化と農業体験を柱とした修学旅行受入れは、1975年から35年の実績を重ね、北海道から九州まで全国各地の小中学生、高校生の来訪は、年間150校2万人余ののぼり、都市と農村の交流の輪を拡大している。</p> <p>受賞の翌1996年、芸術とリゾートを融合させたアートヴィレッジ「たざわこ芸術村」をオープン。10万㎡の敷地内に、年間250回のオリジナルミュージカルを常設公演するわらび劇場、地ビール醸造の田沢湖ビールとレストラン、温泉宿泊施設、アート体験のできる森林工芸館、最新のコンピューター技術を駆使したデジタルアートファクトリー等を展開し、国内外から年間25万人余の来村者を迎えている。また、同敷地内の一般財団法人民族芸術研究所には、15万曲の日本民謡の音資料、映像資料を収蔵しており、デジタルアートファクトリーのエンジニアとタイアップして、データベース化と芸能継承のためのテキストDVD制作も進めている。</p> <p>一方、2006年4月には、愛媛県に「坊っちゃん劇場」をオープン。地元企業とわらび座の共同経営会社で運営しており、四国の地域資源の中からオリジナルミュージカルの創造を続け、観光とリンクする「西日本の地域文化発信常設劇場」として期待を集めている。</p> 	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>仙北市総務部企画振興課 0187-43-1112</p>

<p>大江町(京都府大江町)</p> <p>http://www.city.fukuchiyama.kyoto.jp</p>	<p>大江山の鬼伝説をまちづくりに活かし、酒呑童子祭りを創生後、「全国鬼師の集い」「昭和の鬼展」「鬼伝説一千年祭」、「鬼芸能全国大会」等、多彩なイベントを開催。その後「鬼の交流博物館」「平成の大鬼」の建設、「全国鬼学会」も発足した。</p> <p>大江町は、平成18年1月に福知山市・三和町・夜久野町・大江町の1市3町の合併を行ないました。3町の福知山市への編入合併でしたが、合併後の地域づくりにあたっては、それぞれの旧町の「特色」を大切にするという方針で臨んでいる。</p> <p>旧3町の独自性のある地域振興策の取組みを踏まえ、個性あるまちづくりを継続するため、各支所に地域振興を推進する担当部署を設け、大江地域においては、旧大江町時代からまちづくりの中心モチーフであり、地域づくり表彰におけるアピールポイントであった大江山の「鬼」を活かした地域づくりを継承し取り組んでいる。</p> <p>具体的には、鬼のことなら何でもわかる「日本の鬼の交流博物館」や手づくりの鬼瓦で埋め尽くした「鬼瓦公園」などを拠点として、鬼づくしのイベント「大江山酒呑童子まつり」、鬼瓦製作者の集団「日本鬼師の会」、鬼に興味を持つ人々が集う「世界鬼学会」など鬼の情報発信を続けている。</p> <p>また、平成23年秋に京都府で開催が予定されている国民文化祭において、福知山市ではテーマの一つとして「日本「鬼文化」交流祭典」と題し、大江山や全国の鬼伝説にまつわる資料等の展示、鬼を題材にしたシンポジウムや民族芸能を紹介する予定。</p> <p>平成19年には「丹後天橋立大江山国定公園」として大江山連峰一帯が指定され、新しい地域づくりの好機として、美しい棚田等の里山風景、歴史・文化遺産とともに、鬼伝説を活かした地域づくりの取組みを進めている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>福知山市 0773-56-1101 総務部大江支所地域振興係</p>
<p>熊本県南部地区市民の会(熊本市川尻校区)</p>	<p>「自分達のまちは、自分達で」という基本姿勢で、川尻校区一万人の人達が描く「一万人で描く一枚の絵」運動を展開。また、川尻の根幹は川にあるという事で、河川環境に関するフォーラム、船上ディスカッション、河川の清掃などを実施している。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>熊本市市 096-328-2231 民生活局市民生活部地域づくり推進課</p>



<p>全国太鼓フェスティバル実行委員会(岩手県陸前高田市)</p> <p>http://www.3riku.jp/taiko/</p>	<p>伝統行事である「けんか七夕」に使われる「けんか七夕太鼓」を活用して全国の太鼓団体を集めたイベントを開催している。平成6年には、全国の太鼓団体を集めたイベントを開催している。平成6年には、全国から4,600人の観客があり、全国の太鼓団体から「一度は陸前高田で太鼓を叩いてみたい」と言われている。出演した太鼓団体との交流の輪が広がるとともに、県内の太鼓団体の活動を活発にしている。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>陸前高田市企画部 商工観光課</p> <p>0192-54-2111</p>
<p>高橋孝一とロマンチック街道313連絡協議会(広島県福山市ほか)</p> <p>http://www.kingparts.co.jp/r313/index.shtml</p>	<p>国道313号線沿線は、文化財、歴史、自然景観等、ドイツのロマンチック街道に比すべき観光ルートになり得るとして、地域づくりの統一コンセプトにロマンチック街道313が提唱された。高橋氏の呼びかけで、沿線の5つの青年会議所が連絡協議会を設立し、クラシックカーツーリング、PRキャラバン等、各種の催しを行っている。平成22年で22年目を迎えた。昨年度は新たな節目として、個々に目を向け、国道313号線の中心に位置する高梁の歴史・文化的遺産を参加者に存分に味わってもらい、さらなる国道313号線沿線の魅力の伝達、振興を図ってきた。今年度はツーリングを計画しており、国道313号線および沿線の魅力を伝えていく。</p> 	<p>観光振興</p>	<p>福山市企画総務局 企画部企画課</p> <p>084-928-1012</p>
<p>南丘コミュニティ委員会(福岡県北九州市)</p> <p>解散</p>	<p>急激な宅地開発で「死の川」となっていた小熊野川を新旧住民が連携して、きれいにする運動を始めた結果、虫が舞い、花、木、鳥が遊ぶ川になった。その後、コミュニティ委員会が発足し、ホテル祭りの開催、文化祭、盆踊り等、様々なコミュニティ行事を行った。</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	
<p>本町研究会(宮崎県日南市)</p> <p>活動休止</p>	<p>住民の創意工夫により商人町を復元し、本町研究会を設立して、古い町並みの保存と復元を行った。また、飫肥城下祭りの開催、郷土芸能館の整備等を行ってきた。毎月1回、月地元住民や金融機関・郵便局等の方々と、地域の現状把握や、まちづくりについて勉強会を開催している。この勉強会も400回を越え、地域の情報交換の場としても、活用を図っている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>日南市総務部企画政策課 地域振興係</p> <p>0987-31-1116</p>

平成6年度(第11回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
最上広域市町村圏事務組合・国際交流センター(山形県新庄市ほか) 廃止	過疎の進行に伴う後継者(嫁)対策の一環として、日本へ嫁いだ外国人妻達の相互交流及び、地域レベルの国際化推進の拠点として、国際交流センターを設置する等、国際交流による地域の活性化に取り組んだ。	国際交流	
越中野外音楽劇団(富山県高岡市) 解散	国司であった大伴家持にちなみ、「万葉のふるさとづくり」をコンセプトにした、市民参加型の野外音楽劇「越中万葉夢幻譚」を高岡吉岡公園で開催。約1,600名が参加するなど音楽による地域づくり活動が進められた。	地域連携・地域おこし	
唐津市高島開発組合(佐賀県唐津市) 活動休止	「嫁が喜んで来る島」を合い言葉に活動を開始。高島の祖を祭った「宝当神社」を起爆剤に、宝当グッズの開発、自生のマテバシイの宝当炭、宝くじに結びつけた地域づくり交流を実施。伝統祭の復活など島民一団となった活動を推進した。	文化・歴史資源の継承・利活用	唐津市地域振興部 地域支援課 0955-72-9220
三島カップヨットレース実行委員会(鹿児島県三島村) http://www.mishimamura.jp	外洋の3島から成る村の手作りのヨットレースを中心とした交流イベントを実施している。今年で16回となり、県内外のヨットレースでも好評を得ており、夏の大代表的なイベントとして成長した。 また、当イベントから、ジャンベ(西アフリカの太鼓)をとおした交流も生まれ、今や三島村の代表的な楽器となったことや、ヨットマンと村民との交流は年々盛んになっている。 	地域連携・地域おこし	三島村総務課 099-222-3141
北竜町(北海道北竜町) http://www.town.hokuryu.hokkaido.jp/index.jsp	ひまわりの一戸1アール運動の展開により、日本一の作付け面積を誇る。ひまわりを利用した製品開発と観光農業の推進による地域づくりを行っている。また「ひまわりまつり」は、夏の風物詩として定着してきた。 現在、北竜町は昭和55年よりひまわりを核としたまちづくりに取り組んでいる。受賞時(平成6年度)においては「ひまわりの里」の作付面積は約6ヘクタールであったが、現在は約23ヘクタール、130万本のひまわりが植えられ、年間20万人の観光客が訪れている。 	地場産品の普及・促進	北竜町総務課企画係 0164-34-2111

<p>まいづる21世紀委員会(京都府舞鶴市)</p> <p>解散</p>	<p>本会は、行政と住民が一体となったまちづくりを目指す地域の民間オピニオンリーダーとして活動を展開。市の木「ケヤキ」にイルミネーションの設置や赤レンガ倉庫群のライトアップ化、まちづくりの提案などを行った。</p> <p>現在、「ふるさと舞鶴を明るく楽しいまちにしたい」と市民有志が結成した舞鶴21世紀委員会は、街路樹へのイルミネーション点灯をはじめ、いくつかの提言や取り組みを実現し、21世紀に明かりを灯すことができたとして、2000年12月31日に解散した。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>イノブタダービー実行委員会(和歌山県すさみ町)</p> <p>http://www.inobuta.jp</p>	<p>特産品イノブタ(猪と豚の交配種)にちなんだ「イノブータン王国」を建国。イノブタのダービー、グルメンピック(料理のオリンピック)等のイベント、関連商品開発等「遊び心からの町づくり」を進めてきた。</p> <p>昭和56年5月商工会青年部により、特産のイノブタを活用したイベント「イノブタダービー」を開催。その後、町を挙げてイノブタダービー実行委員会を組織し、毎年5月3日に開催、例年2.5万人から3万人の観光客を集める町のシンボルイベントとなっている。</p> <p>昭和61年パロディ国家「イノブータン王国」を建国、「遊び心を活かしたまちづくり」をテーマに地域の活性化に取り組んできた。</p> <p>現在、地域経済の活性化を図るためイノブタの民間飼育に力をいれており、すさみF1イノブタ「イブの恵み」のブランド化に向けた取り組みを始めている。</p> <p>イノブタを活用したイベントの開催、味覚の提供、地域産品づくりなどを通して、王国建国の精神にもあるように、「遊び心」あふれる地域づくりを推進している。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>すさみ町 0739-55- 産業建設 2004 課商工観 光係</p>
<p>南郷村(宮崎県南郷村)</p> <p>http://www.town.miyazaki-misato.lg.jp/</p>	<p>「百済の里づくり」によるむらづくりとして、百済文化を通じた日韓交流、各種イベントを実施。百済の館を中心とした観光開発、屋根瓦の美しい古都の創出をテーマとした公共建築物の景観の統一等を行うなど、百済をテーマにした地域づくり活動に取り組んできた。</p> <p>現在、美郷町南郷区ではこの地に古くから伝わる「百済伝説」を後世に語り継ぐとともに、地域おこしの原動力として捉え、「百済の里づくり」事業を合併前から展開してきた。合併後も引き続きその想いは受け継がれ、伝説の証である「師走祭り」は美郷3大祭りとして位置づけられ、全町挙げて行われている。また、2009年には国際交流20周年を迎えるにあたり、これを記念して美郷町と韓国・扶餘邑の姉妹都市提携調印式が行われた。両町の関係者や多くの町民、観光客の見守り中、お互いの発展と飛躍を誓った。また、引き続き韓国から国際交流員を招へいしており、住民に対するハンゲル講座や、小中学校での国際理解教育に取り組んでいる。</p>	<p>国際交流</p>	<p>美郷町(旧南郷村)企 0982-66- 画情報課 3603</p>

